

製品名: SUMO2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18440**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	SUMO2 SMT3A SMT3H2
別名	Small ubiquitin-related modifier 2 (SUMO-2;HSMT3;SMT3 homolog 2;SUMO-3;Sentrin-2;Ubiquitin-like protein SMT3A;Smt3A)
遺伝子 ID	6613.0
SwissProt ID	P61956
免疫原	ヒト SUMO2 由来の合成ペプチド AA 範囲: 45-95

背景

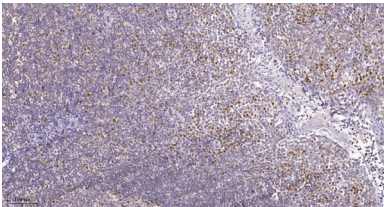
この遺伝子は、SUMO (small ubiquitin-like modifier) タンパク質ファミリーに属するタンパク質をコードします。このタンパク質

は、翻訳後修飾システムの一部として標的タンパク質に結合するという点で、ユビキチンと同様に機能します。しかし、タンパク質を分解の標的とするユビキチンとは異なり、このタンパク質は核輸送、転写調節、アポトーシス、タンパク質安定化など、様々な細胞プロセスに関与しています。カルボキシ末端の最後の2つのアミノ酸が切断されるまでは活性化しません。この遺伝子には多数の偽遺伝子が報告されています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエーションが特徴付けられています。[RefSeq提供、2008年7月],機能: 標的リジンにモノマーまたはリジン結合ポリマーとして共有結合できるユビキチン様タンパク質。タンパク質分解には関与していないようで、分解プロセスにおいてユビキチンの拮抗薬として機能する可能性がある。核輸送、DNA複製と修復、有糸分裂、シグナル伝達など、多くの細胞プロセスで役割を果たす。基質への共有結合には、E1複合体SAE1-SAE2による事前の活性化とE2酵素UBE2Iへの結合が必要であり、PIAS1-4、RANBP2、CBX4などのE3リガーゼによって促進される。、オンライン情報: SUMOタンパク質エントリ,PTM: 機能には、SENP1またはSENP2による前駆体形態の切断が必要である。、PTM: 機能には、SENP1、SENP2、またはSENP5による前駆体形態の切断が必要である。、PTM: Lys-11架橋によりポリマー鎖を形成できる。、類似性: ユビキチンファミリーに属します。SUMOサブファミリー。、類似性: 1つのユビキチン様ドメインを含む。、細胞内局在: 核小体。、サブユニット: ホモ三量体(潜在的)。結晶パッキング解析から三量体構造を形成する可能性が示唆されているが、その生物学的意義は未だ解明されていない。SAE2およびUBE2Iと相互作用する。多くのタンパク質と共有結合する。PELP1と相互作用する。、サブユニット: SAE2およびUBE2Iと相互作用する。多くのタンパク質と共有結合する。、組織特異性: 広く発現する。、組織特異性: 主に肝臓で発現する。、

研究分野

細胞生物学; タンパク質分解/ユビキチン; プロテアソーム/ユビキチン; 相撲

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。2、抗体を 1:200 に希釈した (4°で一晩)。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。